

また暑い季節となりますが

早々と梅雨入りしましたが、時にかつと晴れたかと思うと、どしゃ降りの雨がふったりで、昨今は熱帯に近いような天候が続いています。なつかぜ、そして暑くなっていくなかでの熱中症に御注意ください。水分は十分とりましょう。



糖尿病と遺伝

血縁に糖尿病の人がいると糖尿病になりやすいというのは事実で、1型、2型糖尿病とも遺伝が発症に関与しています。ただこの場合の遺伝というのは必ず発症するというのではなくて、その遺伝形質に加えて環境的な要因（例えば2型糖尿病の場合では過食、運動不足を背景とした肥満など）が加わると発症のリスクが高くなるというものです。ヒトゲノム計画をつうじてヒトの遺伝情報にはいたるところに個人個人の違い（多様性）が存在することが分かりました。この多様性をゲノム上のマーカーにして多くの人の遺伝情報を比較することで疾患に関係のある遺伝子座を絞り込もうという研究が行われました。2型糖尿病では、それぞれ、白人と日本人を対象としてTCF7L2、KCNQ1という遺伝子座が発症と関係することがわかりました。1型糖尿病では免疫応答に関係するHLA遺伝子（いわゆる白血球の血液型）が発症に強く関与することが分かっていたのですが、そのほかに複数個の免疫に関連する遺伝子座が発症に関連することが示されました。ただこれらのみで完全に糖尿病の発症が説明されるわけではなく、またその遺伝子座がどのように機能して発症に関連しているのかはこれからの課題です。

40歳代は多忙か

2012年の国民健康栄養調査によりますと、糖尿病有病者と予備軍は約2050万人で、5年毎に行われている調査で初めて減少しました。ただ糖尿病有病者は950万人と相変わらず増えており、そのうち、継続して治療をうけているのは6割強に過ぎず、40歳代に至っては4割弱にとどまっています。確かに仕事の上でも家庭内でも責任が重くなり、忙しいのが40歳代でしょうか。しかし糖尿病の放置、治療の中断は後の合併症の発症、進行を考えるとよくありません。自分のために多忙な中にも体のケアを含めて治療を継続することが重要です。

糖尿病の薬の話 (8) SGLT2阻害剤

Sodium glucose co-transporter type 2 (SGLT2) 阻害剤は今春から発売された新しい糖尿病薬です。腎臓では血中のブドウ糖を尿中に濾過し再び血中に吸収する（再吸収）ということが行われています。糖尿病では血中のブドウ糖濃度が高いにもかかわらず、腎臓でのブドウ糖の再吸収が亢進しており、さらに再吸収しきれなかったブドウ糖は尿中に尿糖として出ています。SGLT2阻害剤は尿中に濾過されたブドウ糖の再吸収を担う尿細管のSGLT2という輸送体の働きを阻害し尿中へのブドウ糖の排泄を増やすことにより血糖を下げる薬剤です。体からエネルギー（ブドウ糖）が尿中に失われるので体重を減らす効果もあります。しかし、尿中のブドウ糖排泄が増えることで、尿量が多くなり脱水になる、また特に女性は尿路、陰部感染の頻度が高くなるなどの懸念があります。

編集後記

サッカーW杯、残念ながら日本代表は一次リーグ敗退となってしまいました。地球の裏側まで遠征し、異なる環境で結果を出すことの難しさはあるでしょう。あの、スペイン、イングランド、イタリアでさえ敗れてしまったのですから。決勝トーナメントは続いています。時差でライブでは見られませんが、ハイライトで観たいと思っています。